

「大学の序列化」^{ランキン}をめぐって

——ドイツのラジオ番組から——

宇 京 早 苗

米国や英国では、かなり以前から「大学の序列化」^{ランキン}が行なわれており、その順位表は日本でも紹介されたことがあった。こうしたことをドイツでも行なってみてはどうだろうか？ という声が数年来、次第に高まって来ていた。そこには、各大学の評価を序列化という形で公表しようとする主として行政側からの意向が働いていたものと思われる。

しかし、それぞれに特色と伝統をもつ全国五十余りの総合（工科）大学を序列化することなど、果してそれほど容易にできることだろうか？ それ以来、この提案をめぐって、さまざまな面から調査が行なわれた。次に紹介するような数々の報告や意見は、改めて「序列化」のもつ多くの問題を明らかにすると同時に、

ドイツの大学の実情をも伝えていて興味深い。

(a) 博士号と教授資格の取得件数がドイツで最も多い Freiburg 大学は、学問的創造性という点では一位にランクされるだろう。しかし、最高の研究がこの大学でなされたと言えるだろうか？

(b) Oldenburg 大学の経済学部の場合、殆んどどの学生の卒業成績が〈sehr gut〉である。これを以って、この大学が最善の教育を行なったと言えるだろうか？

(c) München 大学は入学希望者の数が最も多い大学であるが、希望者たちはこの大学の内容に対してよりも、むしろ München という都市に魅力を感じているのではないだろうか？

(d) 外国からの研究者の場合には、それ程に偏見もなく、従ってより容観的な目で留学先を選ぶことだろうと推測されるが、ある報告書によると、彼らに人気のある大学の一位は Heidelberg 大学と München 大学、そして二位は Bonn 大学となっている。

(e) 学術雑誌に発表された研究論文の数が最も多いのは Württemberg の大学の Hohenheim である。

(f) 卒業生の就職率に基づいて序列をつけてみると、

Karlsruhe 工科大学を一位として、以下にはすべて工科大学が並び、世間で評判の良い Göttingen, Köln, Bonn, München などの大学はかなり下位に顔を出すことになる。

(g) Kiel 大学は、全国の企業顧問と大企業の人事担当者に、〈大卒採用者を長年、観察した結果に基づいて〉各大学を評価してもらい、その結果を順位表にまとめた。それによると、一位は Aachen 工科大学で、五十位は Bremen 大学であった。

以上のことは、ドイツで「大学の序列化」を行なおうとすることは、まさに Herkulesarbeit にも等しいことを示している。更にまた、次に紹介するように、「大学の序列化」を大して必要とは考えていない人や、関心を抱いていない人もかなり存在するのである。

(1) 「どこの大学にもよく出来る学生とそうでない学生とがいます。それぞれの大学から優秀な学生を選び出すのが私の使命です」(Commerzbank の人事部長)

(2) 「大卒者を採用する場合、私たちが最も重要視するのは、専門知識の他に、在学中に示された Initiative, Flexibilität, Teamgeist として物事に対する

Interesseなどです」(HK Essenの会長)

(3)「しっかりした Nährboden をもつ学生ならば、

順位表の一位の大学で学ぼうと、五十位の大学で学ぼうと、立派に伸びてゆくものです」(ある大企業の顧問)

(4)「全国の大卒会社員二五〇〇人を対象に、入社後二年間の待遇状況を調べたところ、どこの大学を出ていようと、給料や昇進などの面で差は認められませんでした」(Kassel大学の経営学教授)

(5)「大卒のサラリーマンを対象に、五十余りの大学の名簿の中からへベスト五」を選び出してもらう実験をしました。その際、彼らはみな一様に、大変困った表情を示しました。そして、暫く考えた末に選り出し

てくれたのですが、その結果は彼らの80%の人が一位、二位、三位にはかつて自分が学んだ大学を(⊕)ドイツでは、大学間の転校が可能である)、四位には自分の家族や親戚の者が学んだ(或いは、学んでいる)大学を、そして五位には自分の周囲の尊敬する上司や同僚が学んだ大学を挙げたのです」(Essen 大学社会学教授)

以上のような事情から、ともかくドイツでは「大学の序列化」は見合わされることになった。しかしながら、「大学の序列化」を見合わすことは、各大学の評価をも見送ることを意味するものでは決してない。なるほど、「Wettbewerb schützt vor Faulheit」を寝言のように繰り返す人は大勢いる。更にまた、大学の研究費の配分が Gießkannenprinzip に拠らず、研究教育上の成果に応じて行なわれているドイツでは、大学の学術的成果の評価が非常に重要視されている。それ故に、今まで以上に効果的で厳密な評価方法を検討するための専門委員会〈Bildung 2000〉もつくられることになった。ドイツの大学が西暦二〇〇〇年を目処に変わろうとしていることは、間違いなさそうである。

(三重大学教授)